

所要時間 60分

問 国保税の軽減対策は

答 税の投入ではなく医療費の抑制で

滞納状況及び対応は

問 社会保障は自助が基本という現政権のもとで、税と社会保障の解体が進行しており、全国的に国保は、滞納世帯数、資格証明書並びに短期保険証の発行数が高まっています。

本町の状況及び対応・対策について伺います。

町長

平成24年度収納状況は、現年度分5億6627万円（徴収率88・34%）、滞納繰越分4199万円（徴収率15・45%）、合計では6億826万円（徴収率66・64%）となっています。平成25年度への繰越額は2億8474万円で、滞納者数現年度分541名、滞納繰越分633名とほぼ横ばい状況です。収納対策に関しては、一括納付が困難な場合、納税相談を行い分納計画を立て、119件の分納誓約を結び、計画的かつ早期滞納解消への指導をしたところです。誓約後も納付状況

の把握や、電話催告及び面談を行います。面談にも応じない時は、差し押さえ等の処分を実施しています。

法定外繰入による軽減対策は

問 国保に対する国の負担分は減らされ続けており、1980年代57%から2011（H23）年度で25%、半分以上です。県内自治体は、一般会計からの法定外繰入を増やし、国保税（料）の上昇を抑える努力をしています。国保税の過重負担を解消するためには、基金の取り崩しや、法定外繰入により軽減対策

に取り組みする必要があります。加えて、滞納による住民サービスの制限等については、住民感情に配慮され、徴収強化マニュアルだけに頼らず、納税者の信頼に値する方法をとっていただきたいと思っています。

住民課長

法定外の繰り入れについては県内状況もありますが、適当ではないと思います。今の状況下では、やはり保険税は限

度が来ますので、当然次の段階について話し合う必要があると思います。担当課がまず出来ることとしては、医療費を抑えていくために、特定健診の充実などに力を入れていくことであると理解しています。

税務課主幹

現在、相談室を設置したり、窓口についてはスクリーンを設置し、プライベートに配慮した対応をとっています。滞納者に対する一時金支給（出産一時金、葬祭費等）についての対応は、滞納者と給付を受ける方が同一の場合、制度の趣旨等説明させていただき、ご了解をいただいた中でその給付金を納税（未納分）に充ててもらっています。給付を受ける方と滞納者、納税義務者が一致しない場合、直接の話は避けています。

一部負担金免除制度の実施は

問 国保法第44条に基づく医療費一部負担金免除申請制度実施に向けての取り組みを伺います。



石渡悦子議員

町長 この制度については、特別の理由がある被保険者で、保険医療機関等に一部負担金を支払うことが困難であると認められる者に対し、一部負担金の減額や支払い免除、徴収猶予の措置をとることが出来る旨定められています。

昨年12月の質問の折、本町においても要綱を制定し、平成25年度より実施していく方針を示しました。先月要綱を制定し、8月29日の国保運営協議会において協議いただきましたので、10月1日付で実行していきたいと考えています。



高坂恭子議員

所要時間 31分

問 学童保育所は手狭ではないか

答 移転についても、実現できるように協議しています

たこ・こどもルームは移設するのか

問 こども園の開園に伴い、（そこへ）たこ・こどもルームを移設する予定はありますか。

町長

こども園には、園児が学びや集う園舎のほか、現在のたこ・こどもルームと同じように、親子で共に過ごし遊べる総合的子育て機能を持たせた『子育て支援室』を設置します。

今後の学童保育所は

問 平成23年10月頃、中村小の父兄から学童保育所の（新設）要望が出されたことを受け、当時のPTA会長が要望書とアンケート結果を町に提出しました。町長からの回答は、学童保育事業の実施については、具体的な把握を行い、できるだけ早期に学童保育所または放課後子ども教室の整備を進めていきたいとの考えをいただきました



元気に遊ぶ子ども達 (多古学童保育所)

したが、再度中村小、常磐小の児童に学童保育所等の整備を進めていただく、見通しを伺います。

町長

学童保育所の入所者については年々増加しており、現在は、多古学童、久賀学童ともに定員を上回る状況です。

今年度は特に中村小、常磐小児童の入所者が増加しており、今後は旧中幼稚園の施設を候補の1つとして、新たに学童保育所または放課後子ども教室等を設置できるように、検討を加えていきたいと思っています。

子育て支援課長

多古学童保育所は平成14年7月に開設し、第一小、第二小、常磐小、中村小の4ヶ所から、39人の登録者のうち、常時30人程の児童が通っています。また、久賀学童保育所は31人の登録者のうち、平日はおおよそ25人から30人が通っています。

問 (多古と久賀どちらの学童保育所も) 大分手狭な状態だと思えます。元気な子どもたちがいつときもじっとしていない中、ほこりの充満した場所になってしまい健康面が気になります。今後、空き施設を利用し、学童の整備を進めていただくべく、見通しを伺います。

町長

現在、庁舎内に『幼稚園等空き施設利用検討委員会』を設置し、各施設の有効活用を検討しています。多古学童保育所並びに久賀学童保育所の移転についても、実現できるように協議をしています。学童保育所の整備は、優先的に行っていく必要があると認識し、施設面のみならず運営の手法等についても



高坂恭子議員

町直営に捉われず、民間委託等も視野に入れ、さらに充実を図ってきたいと考えています。

問

当面は空き施設を利用することが、長期的な対応ではない気がしますが、(空き施設が) 老朽化することを考えた場合、その後の学童保育所のありようも変わってくると思えますが。

町長

飛躍した話はできませんが、現状や将来を見た時、基本的に小学校機能に学童保育所を併設したいという考えを持っています。ヨーロッパの教育課程では、図書館教育を重点的に行っており、考える力を付けるという意味で、学童保育のような時間外の過ごし方について、図書館を最大限利用しているという現状もありますので、それらを含め、考えていく必要があると認識しています。